



電源ドナー™

電源ドナーWEBページ



災害時の電源情報提供サービス

【アイコンをホーム画面に表示】(iPhone)
・Safari から画面下の四角に↑を選択
・「ホーム画面に追加」⇒「追加」を選択

いま、ここに、これだけ電気がある！

災害が多い日本だから、いま改めて考える
地域に貢献する電力情報提供サービスです。

ステップ：1

災害時にフォークリフトの電力を提供する「電源ドナー」に登録。

- ・ 平常時は、電動フォークリフトのバッテリーの状態を監視。(要:点検なび)
- ・ 災害時に『給電場所』となる施設を「電源ドナー」アプリの地図に表示。

ステップ：2

災害時、『給電場所』に供給可能な電力量が開示される。

- ・ 『給電場所』での供給の有/無、供給可能量の確認が可能。(無駄な移動を回避)
- ・ 「電源ドナー」のアプリ情報は、SNSで拡散。 **情報が重要**

【概略図】



電動フォークリフト
重機のバッテリー

災害時 給電拠点に



電源ドナーは、スマートフォンアプリ上に給電拠点となる登録企業の施設をバッテリー残量とともに表示するサービス。どこに、どれだけ電気があるかなどの情報を会員制交流サイト(SNS)も使って広く発信し、災害発生時の給電拠点として近くの住民らに無償で開放する。

実験は協和運輸倉庫の本社、営業所にある電動フォーク5台に、バッテリーの状況や位置情報を送信する通信機器を取り付けて実施している。電動フォークのバッテリー容量は約14〜27 kWh。携帯電話なら1300〜2700回程度のフル充電ができるという。

協和運輸倉庫は、東日本

携帯電話充電など

運輸・倉庫業の協和運輸倉庫(仙台市宮城野区、バッテリー遠隔監視サービスを手掛けるイーコース(東京)は、電動フォークリフトに搭載されたバッテリーの電気を、災害時に携帯電話の充電などの用途に一般開放する「電源ドナー」の実証実験に取り組んでいる。平時もバッテリーの効率的な運用に役立つ仕組みで、西社は「東日本大震災を踏まえた備えが広がってほしい」と期待する。

仙台 協和運輸倉庫で実証実験

近隣住民らに無償開放

大震災で仙台港近くの倉庫が津波に襲われるなど大きな被害を受けた。高橋大輔社長(44)は「作業の道具でしかなかった電動フォークが、こうした形で地元の防災・減災にも役立てばうれしい」と期待する。

電源ドナーは、イーコースが2016年に運用を始めた「点検なび」がベースにある。IoT(モノのインターネット)技術を活用し、平常時からバッテリーの状態をパソコンやスマホで遠隔監視し、電動フォークの効率的な使い方につなげられる。

イーコースは実験結果を5月中旬に検証し、早ければ6月にも電源ドナーサービスの販売を始める。サービス拡大に向けて、運輸・倉庫の業界団体にも活用を働き掛けるという。

同社の菊竹玉記社長(54)は「市民は万が一の際の給電拠点があることで安心して、企業にとっては地元貢献やCSR(企業の社会的責任)につながる。被災地仙台を起点に、全国に向けてサービスを発信したい」と話す。

「電源ドナー」の実験を行っている電動フォークと高橋社長
川仙台市宮城野区の協和運輸倉庫

電動フォークリフト

※ 使用できる電力の目安 (バッテリーの定格容量100%の場合)

項目	使用時間	消費電力	リーチ型の場合	カウンタ型の場合
スマホ充電	60分	10Wh	1,344回	1,920回
ケトル給湯	5分	75Wh	179回	256回



電源ドナーに参加して頂ける企業様を募集中です。

〈お問合せ〉



株式会社 **イーコース**

〒104-0042
東京都中央区入船1-1-26 永井ビル5F
TEL:03-6280-3038 FAX:03-6280-3037